

平成 23 年度 事務事業事後評価調書 (平成 22 年度事業)

整理番号 11 - 29

1 事務事業の表示

■ : 該当

事務事業名	芸術文化公演事業					
評価者	担当課名		教育振興課	担当係名		生涯教育係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	高橋健仁		氏名	大和良成
事業の概要	舞台芸術の機会に恵まれない本町において、児童・生徒等を対象に演劇や音楽などの鑑賞機会を支援し、生の芸術にふれる場をつくり、情操の涵養を図るとともに、芸術への理解を深め地域文化の活性化を図るよう推進している。				全体計画 (平成 20 年度 ~ 24 年度)	
					国・道支出金 千円	
					地方債 千円	
					その他 300 千円	
					一般財源 13,075 千円	
				事業費計 13,375 千円		
実施方法	■ 直 営		民間委託	その他 ()		
第 5 期 総 合 計 画 (前期)			■ 登載事業	非登載事業	優先度	B
事業の位置付け	政策目標	3 のびやか・雄武～教育・文化の振興～				
	基本施策	14 芸術・文化の振興				
	単位施策	2 芸術・文化活動の促進				
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務		
	その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	159 千円	千円	150 千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	1,156 千円	3,421 千円	1,254 千円	4,240 千円	1,475 千円
	合 計	1,156 千円	3,580 千円	1,254 千円	4,390 千円	1,475 千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	
【抱える課題やニーズは】	限られた事業費で多様なニーズに対応したメニューを設定することが課題である。	鑑賞会開催回数	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	芸術への興味や理解の促進	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
		開催回数	目標年度 22年度
			目標値 4 回
			実績値 4 回
			達成度 100.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果 = 目的	芸術文化への理解を深めることで、地域における芸術文化への取り組みが活発化し、芸術鑑賞の機会が増える。		目標年度
			目標値
			実績値
			達成度 %
		内 容 (どのような手段で何を行ったか)	
鑑賞会の開催	保育所及び小学1～2年生～人形劇、小学3～6年生(楽器演奏)、中学生(観劇)高校生(音楽鑑賞)		

3 事務事業の評価(Check)

(1) 事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☐ 義務的なもの	芸術鑑賞の機会が少ないことで、他の地域との芸術文化に関する教養の格差が生じることから、より多くの芸術鑑賞の場を提供し、町民の芸術文化に対する知識等を高めるため必要な事業である。
必要 / 概ね必要 / 課題あり	☐ 全部 ☐ 一部	

(2) 事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	児童・生徒の学年層に応じた芸術鑑賞の場を提供することができ、芸術文化に対する意識の向上を図ることができた。
有効 / 概ね有効 / 課題あり	☒ 達成	
	☐ ほぼ達成 ☐ 下回る	

(3) 事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	限られた予算において、事業執行の工夫を行いつつ、ニーズに沿った事業を実施することにより、芸術文化への意識と教養の向上が図られた。
	☐ 事業費抑制	
	☐ 人員削減	
	☐ 時間短縮・作業軽減	
効率的 / 概ね効率的 / 課題あり	☒ その他	

(4) 事務事業の公平性

公平	判断の理由	事業の対象を町内の全児童・生徒(一部幼児を含む)を対象としており、公平性は保たれている。
	☐ 受益者負担がある	
	☐ 受益者負担がない	
	☐ 受益が一部に偏る	
公平 / 概ね公平 / 公平でない	☒ その他	

4 総合評価【A～D】

A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等

B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等

C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等

D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
計画どおり事業を実施することができ、期待する実施効果を得ることが出来た。		

今後の展開方向 (Action)		
継続 / 現状維持		
芸術鑑賞を通じて芸術文化に対する教養を身につけ、学校等でその成果が発揮できるよう継続して場の提供をするのが重要であるため事業の継続が必要である。		
* 展開方向の区分 ☐ 継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ☐ 終了 ☐ 休止 ☐ 廃止		

5 その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--